

第 68 回総会

本協会創立時の年月日の確定について

趣旨

本協会の、50 年史、60 年史、70 年史、80 年史、90 年史の記念誌にある沿革史（全工協会のあゆみ）には、大正 9 年（1920 年）を設立年としている文言があるが、月日については明記されていない。そこで、今回の 100 周年記念行事を好機として調査を行い、創立年月日を確定することを目的とする。

提案

本協会の創立記念日を、大正 9 年 3 月 15 日（1920 年）とする。

理由

50 年史の中に、大阪府立商品陳列所の付属として「社団法人商工中心会」が、3 月 15 日に創立されたことが記されている。そして、50 年史の 192 ページ、下段に「本協会の濫觴^{※1}を大正 9 年に求める・・・」との記録がある。また、60 年史の本協会の「あゆみ」の項目の中に、「大正 9 年（1920 年）この年大阪府立商品陳列所（現在の大阪府立貿易館^{※2}）に協賛団体として商工中心会が創設されて、その事業の一つとして工業教育に関する問題が提唱され、これによって大阪の工業学校長とのつながりが生じ、さらに近畿全域にまで広がった。このような情勢をふまえて、商工中心会の発足の年を本協会の歴史の始まりとした。」とある。これ以降、各年代の記念誌には、創立記念日に対する考察はなく、単に大正 9 年発足のみしか記録されていない。

また、初代会長の山口貴雄氏を中心に研究された文書が、機関誌「工業教育」の平成 21 年 11 月号から平成 22 年 9 月号までの 6 回にわたって掲載された。「山口貴雄と工業教育」と題して、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科造形科学科専攻の三宅拓也氏が執筆している。（別紙参照）その中で詳しく「商工中心会」について記述されている。

よって、100 周年記念式典及び記念誌を発刊するこの機会に、正式に発足年月日を定めることが適切であると判断し、上記の年月日を提案するものである。

※1 濫觴（らんしょう）：流れの源、転じて物事の始まり、起源の意
（現代漢語例解辞典：小学館より）

※2 大阪府立貿易館は昭和 62 年 11 月に閉館廃止となり、現在は公益財団法人大阪産業振興機構（マイドームおおさか）および大阪府都市魅力創造局国際課が同様の業務を行っている。

以上の件は、平成 29 年 5 月 8 日の第 400 回理事会で、一部修正した上で承認された。

参考 社団法人商工中心会の発足時における役員諸兄について

大正9年3月15日(1920年)

会長	山口 貴雄	農商務省工務課長、東京工業学校教授 大阪開催の極東大博覧会の幹事(大正18年3月から9月)
副会長	伊藤 佐助	不明
	〃 小林 林之助	和菓子屋「(株)あみだ池大黒」の代表取締役社長 栗おこしが初代、1805年創業
	〃 島田 孫市	島田硝子製作所社長(現在:東洋佐々木ガラス(株))
幹事	長谷川 善郎	不明
	〃 岡島 千代造	緋友禪写染法の発明者、繊維業者
	〃 奥野 正太郎	和菓子製造、大正8年3月20日より開催の第3回全国菓子 飴大品評会・大阪大会の会長
	〃 和田 半兵衛	大阪鉄道の役員(明治24年3月の株主総会で決定)
	〃 片岡 長信	大阪府工芸協会創立時の主任(大正13年10月25日)
	〃 中村 利三郎	日綿実業(株)社史より、大正9年6月10日に取締役 富山の繊維問屋の戸井物産・小樽支店長、その後、ゴム工 業の「北海道護謨工業合資会社」を設立する。
	〃 黒川 十祐	不明
	〃 藪 政七	雅号(藪明山)陶芸家、薩摩焼風陶器の第一人者 大阪開催の極東大博覧会の幹事(大正18年3月から9月)
	〃 平佐 惟一	大阪府工務課長・技師(大阪時事新報1924.11.28に掲載) 大阪開催の極東大博覧会の幹事(大正18年3月から9月)
常任幹事	泉林 藤七	大阪陶磁器同業組合・賛同者?or 組合員?
	〃 井岡 大輔	不明
	〃 西山 半兵衛	不明
	〃 段野 忠次	大阪商品陳列所・主事
	〃 阪井 勝一	大阪開催の極東大博覧会の幹事(大正18年3月から9月)
	〃 佐藤 金一	不明
	〃 湯川 左右	「家具小史」の著者(1932年)
	〃 三浦 英三郎	不明
	〃 樋口 彦右衛門	大阪開催の極東大博覧会の幹事(大正18年3月から9月) 「海路諸法度事」の著者(江戸時代)
	〃 関川 徳三郎	不明

調査は、平成27年11月現在において、インターネットで知り得た情報である。
以上が、発足時の役員である。